

2023 FISU World University Games

Report 9(8/6)

8月6日(日)

いよいよ大会最終日。WUG日本代表チーム全てのクルーにとって最後のレースとなりました。今大会は新型コロナウイルスの影響を受け、2年の延期となっているため、選手によっては2年越しの思いがかかったレースとなりました。天候は前日同様良く晴れた暑い日でしたが、決勝種目の後半にかけて、突然の暴風雨となるなど大きな変化のある一日となりました。



艇の最終チェックを行う上田サポートコーチ。



出艇するW1x飯島選手(明治安田生命)。

W1xファイナルB

スタートから各国が飛び出そうとする中、日本は落ち着いて中位でレースに入っていく。500mは1位ハンガリー、2位ドイツに続く3位で通過。ドイツとはセミファイナルA/B以外は全て同組でこのレースで決着をつけたいところ。第二クォーターでじりじりとドイツとの差を詰め、後半に入ってさらに1本の強さが強調され第3クォーターで遂にドイツを捉える。そのまま1位ハンガリーとの差を詰めようとするが、中々詰まらないものの、追い上げようとするドイツをさらに突き放し2位でゴール。オープン種目として貴重な8位入賞を果たした。



600m付近で3位につけるW1x飯島選手(明治安田生命)。手前のテールのみ見えるのがドイツ。



ドイツ(写真手前)を抑え、2位でゴールに向かうW1x飯島選手(明治安田生命)

M2-ファイナルB

スタートからハンガリーが積極的にレースを進め、日本、アメリカが追いかける展開に。500mではハンガリーに3.44秒差をつけられるが、1000mでは1.99秒差に詰め完全に射程圏内に捉えた。日本はそのままペースを崩さずに突き進み、第3クォーターで遂にハンガリーを逆転。そのままスピードを緩めることなくゴールまで突き進み1位でゴール。総合で7位入賞を決めた。



400m付近で選考するハンガリーを追いかけるM2-クルー。S是谷選手、B柘植選手(共にトヨタ紡織)



ハンガリーを振り切りゴールに突き進むM2-クルー。S是谷選手、B柘植選手(共にトヨタ紡織)

LW1xファイナルA

スタートからレースに食らいつくが、メダル圏内になかなか入れない展開に。ただ、軽快なリズムを刻みながら前を追いかける姿にどこか期待を感じた。すると上位争いから遅れたオランダを捉え、4位に浮上。あと1クルー捉えることができればメダルとなるため、猛然とペースを上げる日本。しかし3位との差は開いておりそのまま4位でフィニッシュ。メダルにはあと一歩及ばなかったが、大健闘の4位入賞を果たした。



ウォーミングアップゾーンに向かうLW1x上館選手(仙台大学)。



ゴール前、必死に追いつけるLW1x上館選手(仙台大学)。

LW2xファイナルA

スタートからイタリアと日本が飛び出す。イタリアはグイグイとスピードに乗り主導権を握ろうとするが、日本も良くマークしてついている。500mは1位イタリア、0.51秒遅れて2位日本。3位オランダから多少遅れ始めている。第2クォーターに入ってもイタリアの勢いは収まらず、1000mでは2.39秒差に開いてしまった。第3クォーターでも思ったように差は縮まらず第4クォーターに入る。必死にペースアップして追いかけて差を縮めるも一歩及ばず1.44秒差の2位でゴール。しかし、ローイング競技が行われる大会(本大会におけるローイング競技は開催地選択競技のため、毎大会開催ではなく、前大会は2015年、前々回は2013年大会で実施されております)では3大会連続となるメダル獲得を成し遂げた。



出艇棧橋に向かうLW2xクルー。



1位イタリア(手前)とデッドヒートを繰り広げるLW2 xクルー。S米澤選手(明治安田生命)、B角谷選手(アイリスオーヤマ)、奥は3位南アフリカ。

LM2xファイナルA

戦前の予想通りドイツが飛び出し他国が追いかける展開に。500mでは2位日本から5位トルコまでが0.45秒差にひしめく大混戦となる。第2クォーターに入るとイタリアが伸びてきて単独2位に。日本はトルコと競り合いながら3位をキープして後半戦へ。レース途中から天候が急変し風雨が強まりレースも荒れ模様。トルコが若干後退し代わりにハンガリーが伸びて日本とのメダル争いとなった。激しい風雨の元ゴール前で激しく競り合う日本とハンガリー。しかしここで日本が痛恨のミスオール。そのまま失速し6位でゴールすることとなった。



出艇するLM2xクルー。



突然悪化した天候の中、ゴール前で激しく競り合うLM2xクルー S青木選手(早稲田大学)、B一瀬選手(NTT東日本)とハンガリー(2レーン)。

Victory Ceremonies

LW2x

B 角谷 真緒 選手(アイリスオーヤマ)
S 米澤 知華 選手(明治安田生命)



レース後に行われる予定でしたが、天候が急変し風雨が強くなったため、時間を遅らせての実施となりました。



突然の暴風に見舞われたため、競技会場ではレース後に全メンバーが集まる機会がなかったため、選手村で一旦集まりました。そこで、これまでWUG日本代表チームに同行し支えてくれた現地ボランティアサポートスタッフのDorindaさんにチーム全員からお礼を述べ別れを惜しみました。このような国際交流もまた、若い選手たちのかけがえない経験になることでしょう。

8月6日(日)のレースをもって2023FISUワールドユニバーシティゲームス(2021・成都)日本代表チームのレースは全て終了いたしました。

日本からご声援いただいた皆様、また現地中国から温かいご声援をいただきました皆様、本当にありがとうございました。

結果はLW2xの銀メダル獲得をはじめ、全種目入賞を果たすことができました。そして、この大会までの準備期間も含め、若い選手たちがかけがえのない経験を積むことができたことこそが何よりだと思っております。今後、その経験を一人一人がしっかりと自身の成長に活かしていってくれることと信じております。

最後に今回の遠征にご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「ご声援ありがとうございました」

～第31回FISUワールドユニバーシティゲームス競技大会ローイング競技日本代表選手団一同～



後列左より、中上(チームリーダー)、榊田(コーチ)、是谷(M2-)、柘植(M2-)、青木(LM2x)、一瀬(LM2x)、部谷(トレーナー)

前列左より、Dorinda(現地ボランティアサポートスタッフ)、上舘(LW1x)、角谷(LW2x)、米澤(LW2x)、飯島(W1x)、上田(サポートコーチ)